

第36回（令和元年度）

山崎賞授賞式

日時 令和2年2月16日(日)

午後1時30分

場所 静岡県職員会館
(もくせい会館)

公益財団法人 山崎自然科学教育振興会

アドレス <http://yamazakizaidan.com>

式次第

1. 開 式

2. あいさつ 代表理事 安倍 徹

3. 選考経過報告 選考委員長
県立磐田北高等学校長
鈴木 真人

4. 授 賞 児童・生徒の部
学 校 の 部
教 員 の 部

5. 来賓祝辞 県教育委員会
教 育 長 木 苗 直 秀

6. 研 究 発 表 ◎ さがせ!! 頭を上手に使うコツ Part4
沼津市立金岡小学校 6年
芹 澤 拓 実

◎ 空気中胞子検出によるキノコ生育域調査
県立掛川西高等学校 1~2年
杉 山 賢 大
塚 本 夏 美
岡 田 弥 咲
内 山 友 斗
小 柳 亮 太
山 崎 慎 之 介

7. 閉 式

ご あ い さ つ

本日ここに、関係者の皆様の御理解と御協力をいただき、第36回山崎賞授賞式が盛大に挙行できますことに、深く感謝申し上げます。また、授賞された皆様に、心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。

本振興会は、未来を担う青少年の「科学の芽」を育てることを目的として、昭和58年に山崎貞一氏によって設立されました。以来、自然科学分野の研究への助成事業、研究成果への顕彰事業及び科学教室、講師派遣、研修会支援などの啓発事業の3つの事業を実施してまいりました。令和の時代にあっても、引き続き、設立の精神を忘れずに歩んでまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

本年度の山崎賞には、県下の小学校、中学校及び高等学校から190件の応募をいただきました。選考委員会での厳正な審査の結果、児童・生徒の部65件、学校の部2件、教員の部2件を顕彰することとしました。これらの研究は、地道な努力の積み重ねの上に成果をまとめられ、更に今後の発展が大いに期待されるものでした。

さて、昨年度の^{ほんしょ たすく}本庶佑京都大学特別教授のノーベル医学生理学賞に続き、本年度は^{よしの あきら}吉野彰旭化成フェローがリチウム電池の開発の功績により化学賞を受賞されました。日本の科学研究の底力を、改めて世界に示すことができたのではないかと思います。同時に、今回のリチウム電池の開発が、これまでノーベル賞を受賞された日本の科学者の功績に支えられていることを知り、深い感銘を受けました。具体的には、1981年に化学賞を受賞された^{ふくい けんいち}福井謙一博士の「フロンティア軌道理論」、そして、2000年に化学賞を受賞された^{しらかわ ひでき}白川英樹博士の「ポリアセチレン」です。研究成果は到達点でもあり新たな出発点でもあることを、私たちに改めて教えてくれているのではないかと思います。本日受賞された皆さんの研究成果も、明日への新たな一歩であってほしいと願っています。

結びに、児童・生徒の研究をこれまで熱心に御指導してくださいました先生・保護者の皆様、そして、日ごろから積極的に自然科学教育に取り組んでおられる学校・先生方、さらには、お忙しい中、選考に当たっていただきました選考委員の方々をはじめ、御支援・御協力をいただきました多くの関係者の皆様に、衷心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

令和2年2月16日

公益財団法人 山崎自然科学教育振興会

代表理事 安倍 徹

第36回山崎賞授賞者名簿

児童・生徒の部

(1) 小学校(18件)

番号	研究主題	学校名	学年	氏名	指導者
1	1年間の天気・気温を調べ 季節の変化を知る	牧之原市立細江小学校	5	杉本 陽香	長谷川賀弘
2	タイワンアリタケの菌糸の研究	浜松市立西小学校	6	佐藤 拓心	古田 秀樹
3	キノコの研究 ～キノコのかれ方を調べよう～	浜松市立鴨江小学校	5	大川 笑奈	新村 貢
4	あいぞめの研究 こうその働きを調べよう	浜松市立初生小学校	5	寺田 環	内山 瑞絵
5	クワガタの死んだふり 2	浜松市立内野小学校	4	宮下 拓海	秋山 由愛
6	ミニトマトのかんさつ	浜松市立広沢小学校	2	池上 桜花	浅井 愛架
7	石のひみつパートⅢ ～土石流から命を守る～	磐田市立磐田北小学校	5	太田 有美	村松 茂
8	紙飛行機に空力翼艇をつけて 飛ばしたい!パート2	磐田市立磐田北小学校	6	小林 英治	村松 茂
9	さがせ!! 頭を上手に使うコッ Part 4	沼津市立金岡小学校	6	芹澤 拓実	八柳喜一郎
10	えさがもらえるのはどの色? どの形?	静岡市立西豊田小学校	6	日下部明衣	平谷 麻理
11	カブト虫とクワガタの足の強さと そのしくみ	藤枝市立青島北小学校	4	五藤 大馳	田中 泰慈
12	クモの糸の謎を探る	伊東市立南小学校	6	山本 穂麻	井上晃太郎
13	僕の家には夜集まる虫	牧之原市立川崎小学校	5	飯田 瑞季	大川原 毅
14	身近な鳥たちの観察 (5月から11月)	浜松市立曳馬小学校	5	小粥 暁斗	小笠原秀通
15	安倍川の鉄丸石はどこから 流れてくるのか	静岡市立富士見小学校	6	高津 圭梧	佐藤 俊子
16	環境に配慮したマイクロ水力発電機 の研究	三島市立佐野小学校	5	森川 結太	平野 優佳
17	トンボの羽は本当にすごいのか?	藤枝市立高洲南小学校	5	青木 孝憲	牧田翔太郎
18	ダンゴムシの起き上がりに 必要なことは何?	菊川市立小笠東小学校	5	鈴木 悠輝	袴田 博紀

(2) 中 学 校(14件)

番号	研 究 主 題	学 校 名	学年	氏 名	指 導 者
1	黒カブトムシ復活の時 赤カブトムシ大発生	県立浜松西高等学校 中等部	2	宮下 和真	上西 智紀
2	アカハライモリをいっぱい殖やそう	浜松市立曳馬中学校	2	堀田 智仁	黒田久美子
3	ハゼも怒るし嬉しがる パート5	浜松市立浜名中学校	3	藤田 匡信	岩堀 公亮
4	200年の時を繋いだ江戸期最高の 測量術	浜松市立三方原中学校	2	駒田 光希	宮下 純仁
5	ベンハムコマの秘密 色が見える条件について	浜松市立北星中学校	1	阿部 亜音	平田 好輝
6	自噴井の活用方法	沼津市立浮島中学校	3	成島 陸	田尻 勇次
7	吉浜海岸に足跡がくっきりと つくのはなぜか	静岡市立東豊田中学校	1	佐藤 慶宥	青木 克顕
8	スピーカーボックスの形状による 音の変化	森町立森中学校	1	大井 啓太	川島千恵子
9	身近な水をきれいにしよう ～水草の水質浄化	静岡大学教育学部附属 静岡中学校	1	中津山日彩	井出 祐介
10	鉄ナスや鉄瓶は鉄剤の代わりに なるのか	静岡大学教育学部附属 静岡中学校	3	出口 甲	井出 祐介
11	微生物発電のエネルギーは 使えるのか～2～	焼津市立大富中学校	3	鳥居 裕央	齊藤 那奈
12	モータのしくみに迫る ～追体験の大切さ～	裾野市立東中学校	3	小林 ゆい	川口 悟
13	光合成と光の色の関係性	静岡サレジオ中学校	3	小川瑛史華	伊藤 正美
14	ミストシャワーの効率的な 活用法 Ⅲ	静岡市立清水第八中学校	3	飯塚 颯	榎守 伸昭

(3) 高等学校(33件)

番号	研究主題	学校名	学年	氏名	指導者
1	芝生からネンジュモを撃退する IV	県立掛川東高等学校	1～2	名波由宇多 ほか4名	立石 紀子
2	銅鏡反応における pH の影響	県立清水東高等学校	2	山本 岳功	京田 慎一
3	疑似濃淡電池の起電力	県立清水東高等学校	2	朝比奈杏樹 ほか3名	京田 慎一
4	セミの羽化時期決定要因 4	県立清水東高等学校	2	白鳥 舜	漆畑 信之
5	マイクロプラスチックの回収方法の提案	県立浜松北高等学校	1～2	大島 慈温 ほか7名	岡安 秀夫
6	ホトケドジョウの生息環境の保全 第二報	県立御殿場南高等学校	1～2	市瀬 拓泉 ほか6名	樋口ゆり子
7	静止摩擦係数を決定する条件	県立沼津西高等学校	1～2	内田 賢吾 ほか2名	原 謙一
8	学校周辺におけるカワニナの分布について	県立静岡中央高等学校	1～2	菊地 紀翔 ほか3名	篠田 聖児
9	光がテントウムシに与える影響 Part2	県立科学技術高等学校	1	宮崎 紗帆	谷口裕美枝
10	同極磁石間に働く引力	県立科学技術高等学校	2	山口 敬大 ほか4名	谷口裕美枝
11	一円玉を浮かべる表面張力の働き Part2	県立科学技術高等学校	2	加納 匠 ほか2名	谷口裕美枝
12	メジロの風切羽と体羽の違いについての 研究	県立科学技術高等学校	2	水野 広哉 ほか2名	神谷 恭子
13	ダニエル電池の二次電池化への試み	浜松日体高等学校	1～2	小野 凌輝 ほか3名	河合 克仁
14	サビの腐食評価と防止・処理	学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校	1～2	影山 和也 ほか9名	青木 孝行
15	ハニカム構造の探求	学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校	1	上杉 朋花	渡辺 富夫
16	魚の群れの研究 第2報 (個体が群れようとする傾向)	県立富士宮東高等学校	3	嶋原 冬磨 ほか2名	小林 設郎
17	『発芽直後の植物の生長と光の関係の 研究』	県立富士宮東高等学校	3	栗原 来斗 ほか2名	小林 設郎
18	ダンゴムシによる透明化試薬の性質の 応用	静岡市立高等学校	3	佐藤なつみ ほか2名	杉村 正道
19	ミミズ由来酵素によるバイオマス糖化	静岡市立高等学校	2	宮田 竜 ほか3名	杉村 正道
20	生分解性プラスチック分解菌分離方法の 確立	静岡市立高等学校	2	小西 巧真 ほか2名	曲田 澄子
21	地元ミカンの皮から取れるエタノール量	県立下田高等学校	2	大塚 湧斗	吉田 亮祐
22	ダニエル電池を充電するとどうなるか	県立下田高等学校	2	山本 凱世 ほか2名	吉田 亮祐
23	富士山世界文化遺産構成資産の 環境保全と復活	東海大学付属静岡翔洋 高等学校	1～2	森田 晃大 ほか4名	品川 杏彩
24	魚類の腸内細菌叢の探索	県立沼津東高等学校	2	岩附 利英 ほか4名	渡邊 伸一
25	学校内交通量調査の自動化	県立吉原高等学校	2	船山 翔貴 ほか5名	高橋 秀平
26	機械学習による生物生息調査の可能性	県立掛川西高等学校	2	山本 一輝 ほか4名	鈴木 拓也
27	空気中孢子検出によるキノコ生育域調査	県立掛川西高等学校	1～2	杉山 賢大 ほか5名	鈴木 拓也
28	ムクドリ遺伝的多様性調査	県立掛川西高等学校	1～2	島田 莉乃 ほか3名	鈴木 拓也
29	静岡市内七河川の準絶滅危惧種ミクリの 調査	県立静岡高等学校	1～2	渡辺 智也 ほか11名	稲垣 聖二
30	麻機沼における絶滅危惧植物調査	県立静岡高等学校	1～2	千葉 実莉 ほか11名	稲垣 聖二
31	落花生バルブの性質と紙の強度	県立富岳館高等学校	2～3	北詰 優 ほか9名	大川 翔平
32	ミドリゾウリムシの白化と光条件	学校法人静岡理工科大学 静岡北高等学校	2	望月さくら 小松龍遊雅	塚越 汐里
33	天然酵母を使ったパン作りの研究	県立榛原高等学校	2	落合 天真 ほか4名	松下 保男

学校の部 (2件)

中学校

番号	研究主題	学校名	校長氏名	代表者
1	SDGs 達成につながる理科学習の展開	磐田市立竜洋中学校	倉島茂見	倉島茂見

高等学校

番号	研究主題	学校名	校長氏名	代表者
1	異なる光を当てた場合の海藻 海ぶどうの生長	県立駿河総合高等学校	大庭弘義	金子誠

教員の部 (2件)

高等学校

番号	研究主題	学校名	職名	氏名	校長氏名
1	顕微鏡補助装置・補助光源の開発と頒布	県立榛原高等学校	教諭	松下保男 ほか3名	渡邊昇司
2	ピア・インストラクションによる 高校物理授業	県立吉原高等学校	教諭	高橋秀平	渡邊健

第36回山崎賞

応募件数 及び 授賞件数

(1) 応募件数

区 分	小 学 校	中 学 校	高等学校	計
児童・生徒	4 9	3 8	9 5	1 8 2
学 校	0	2	2	4
教 員	0	1	3	4
計	4 9	4 1	1 0 0	1 9 0

(2) 授賞件数

区 分	小 学 校	中 学 校	高等学校	計
児童・生徒	1 8	1 4	3 3	6 5
学 校	0	1	1	2
教 員	0	0	2	2
計	1 8	1 5	3 6	6 9

第36回山崎賞選考委員

区 分	氏 名	職 名	所 属
委員長	鈴木 真人	校長	県立磐田北高等学校
副委員長	井 島 秀 樹	校長	浜松城北工業高等学校
〃	神 農 清 志	校長	磐田市立豊浜小学校
〃	杉 本 泉	校長	浜松市立都田中学校
委員	山 田 陽 子	副校長	県立磐田西高等学校
〃	望 月 透	教 頭	沼津市立大岡南小学校
〃	長 友 信 也	教 頭	下田市立稲梓中学校
〃	岡 野 哲 也	教育主幹	県教育委員会高校教育課
〃	鈴 木 真 一	教育主幹	県総合教育センター
〃	増 田 雄 介	教育主査	県総合教育センター
〃	藤 原 僚	教育主査	県総合教育センター
〃	北 川 治	教育主査	静西教育事務所
〃	望 月 重 宏	指導主事	静岡市教育委員会教育センター
〃	新 村 和 弥	指導主事	浜松市教育委員会学校教育部指導課
〃	石 代 晃 司	教 諭	県立科学技術高等学校
〃	杉 本 恭 規	教 諭	県立焼津中央高等学校
〃	新 村 茂 生	教 諭	静岡市立清水飯田小学校
〃	藤 原 靖 也	教 諭	菊川市立小笠東小学校
〃	伊 藤 啓 太	教 諭	浜松市立西都台小学校
〃	兼 田 博 光	教 諭	静岡市立清水袖師中学校
〃	東 友 貴	教 諭	藤枝市立青島中学校
〃	中 村 啓 太 郎	教 諭	浜松市立庄内学園

公益財団法人

山崎自然科学教育振興会役員

役名	氏名	現職・元職名
代表評議員	藤野勝裕	元TDK(株)取締役 BG.GM
評議員	山崎善道	近江産業(株)社長
〃	西原茂樹	前牧之原市長
〃	鈴掛純也	元駿府博物館館長
〃	鈴木善彦	元静岡県教育長
〃	増田俊彦	元静岡科学館館長
〃	草谷桂子	元静岡県職員
代表理事	安倍徹	前静岡県教育長
理事	横澤幸仁	常葉大学特任教授
〃	松浦眞一郎	元長田東小学校長
〃	河西哲郎	元藤枝東高校長
〃	鈴木三喜	前三島北高校長
〃	永田研	常葉大学特任准教授
〃	丹沢哲郎	静岡大学理事(副学長)
〃	渡邊聡	元榛原中学校長
監事	中澤俊和	元沼津西高校長
〃	鎌田英巳	元静岡県職員
顧問	熊野善介	静岡大学教授
〃	赤塚千秀	元観山中学校長
〃	大石尚夫	元富士宮西高校長

公益財団法人

山崎自然科学教育振興会事務局

役名	氏名	元職名
事務局長	野村豊道	元牧之原市職員
事務局次長 兼会計担当	小泉正昭	元TDK(株)社員

公益財団法人 山崎自然科学教育振興会のあらまし



財団創立者 山崎貞一

1. 設立の経緯

山崎貞一TDK株式会社第2代社長(牧之原市出身)は、少年少女の科学する心の芽生えを育てることを願い、昭和58年私財を投じて「財団法人山崎自然科学教育振興会」を設立した。現在は、財団の名称を「公益財団法人山崎自然科学教育振興会」と変更し活動が続いている。初代の理事長は実弟の元静岡県議会議員 山崎勝二氏です。

2. 財団の事業

1. 顕彰事業 (成果を重視して表彰する山崎賞)
2. 助成事業 (研究する意欲を援助する助成金)
3. 啓発事業 (科学教室の開催、講師派遣、講演会・研修会支援)

3. これまでの実績

1. 顕彰事業 (山崎賞) 1～36回

児童・生徒	1,524件	学校	144件	教員	208件
副賞金額			100,270,000円		

2. 助成事業 (研究助成) 1～33回

児童・生徒	519件	学校	193件	教員	172件
助成金金額			93,396,000円		

3. 啓発事業 (令和元年度)

科学教室 (三島市、焼津市、牧之原市、浜松市)

講師派遣 (下田市、富士市、静岡市(4)、島田市(3)、袋井市、磐田市、浜松市(2))

講演会・研修会 (静岡市(3)、藤枝市、焼津市)

〒421-0595 静岡県牧之原市女神3-1-1
TDK(株)静岡工場内

公益財団法人 **山崎自然科学教育振興会**

TEL <0548> 54-0211(代)